

TOTTORI UNIVERSITY HOSPITAL CENTER FOR CLINICAL RESIDENCY PROGRAM

鳥取大学医学部附属病院

研修センターだより

鳥取大学卒後臨床研修センター 第32号 2018年3月30日発行

鳥取大学医学部附属病院卒後初期臨床研修における研修理念

将来、医療現場のリーダーとしてふさわしい安全・安心で、最高・最適な医療を提供できる優れた医療人となるために、

1. 医師としての高い倫理性・道徳性を修得する。
2. 常に患者および家族の立場に立ち、医療を実践する。
3. 日常診療で頻繁に遭遇する病態・疾患に適切に対応できる基本的臨床能力（知識、技能、態度）を修得する。

※第32号の紙面※

●ニュース・行事・話題

- 1~2ページ 縫合コンテスト
- 2ページ 平成29年度マッチングと採用二次試験の結果について
- 3ページ 平成29年度鳥取県臨床研修セミナー
- 3~4ページ 平成29年度鳥取大学医学部附属病院初期臨床研修合同説明会
- 4ページ 平成30年新年会
- 5ページ 平成29年度鳥取大学医学部附属病院卒後初期臨床研修修了式を挙行いたしました

●シリーズ

- 5ページ 研修医日誌
鳥取大学医学部附属病院 研修医2年目 杉村留実子
- 6~7ページ 医局探訪～第一外科～
第一外科診療科群 尾崎知博
- 7ページ 研修医今昔物語
眼科 馬場高志
- 8ページ 平成30年度前期行事予定
- 8ページ 編集後記
卒後臨床研修センター教員 西村 玲

ニュース・行事・話題

けっさつ
「結紮王～第1回縫合コンテスト～」
開催報告

2018年1月20日(土)、卒後臨床研修センターと低侵襲外科センターとが共同で「結紮(けっさつ)王～第1回縫合コンテスト～」を開催しました。これは、研修医1、2年生を対象に、基本手技である「縫合」の技術向上とモチベーションアップを目的にしたもので

す。
このコンテストには、本院および本院の山陰たすきがけプログラムに参画している鳥取(鳥取県立中央病院・鳥取赤十字病院・鳥取県立厚生病院・山陰



労災病院・米子医療センター)、島根(松江市立病院・松江赤十字病院・島根県立中央病院・浜田医療センター)、岡山(津山中央病院)の合計10病院に在籍する研修医24名が参加しました。

コンテストではまず縫合について本院形成外科八木俊路朗科長の講義が行われました。その後、真皮縫合と結紉強度の2部門に分かれて競技が行われ、各病院の指導医(外科、形成外科)が審査を担当しました。研修医はコンテスト当日までにそれぞれ

の病院で縫合や結紉の練習を重ねて臨んでおり、練習の成果を発揮しようと懸命に取り組んでいました。

研修医どうしの競争と交流で彩られた活気あるコンテストとなりました。



平成29年度マッチングと採用二次試験の結果について

● 医科

平成29年度の医科マッチングは9月22日に中間公表、10月19日に最終公表が行われました。

本院は定員44名のうち、18名のマッチがあり、マッチング率は40.9%となりました。

平成25年度から右肩上がりの増加を見せてきた医科マッチ者でしたが、ここへ来て減少に転じました。

実はこのことについては、マッチ者の大多数を占める鳥大6年生について、今年は地元出身者が少ないと情報が事前にもたらされていました。

ふたを開けてみると本院ばかりか、鳥取県内の全臨床研修病院のマッチ者総数も減り、本県の地域医療の将来に非常に厳しい現実を突きつける結果となりました。

今後はできる対策は何でも、全てやっていくつもりで、一から見直しを行います。

また、マッチング公表後の二次試験で、2名の研修医を採用することとなりました。このうち1名はお隣韓国の、鳥取県と友好姉妹都市となっている江原道在住の現役の医師です。日本の医師免許を取得しておられ、臨床研修を本院で実施します。

● 歯科

平成29年度の歯科マッチングは10月24日に公表さ

れました。

定員5名のところ、2名のマッチとなっており、マッチング率は40%でした。歯科の臨床研修は1年で医科と比べると短いのですが、医局の上級医も交えて大変仲が良い印象です。医科の研修医とともに、卒研センターを盛り上げて行っていただきたいと思います。

○本院の臨床研修マッチングが近年、一定のマッチ者数を維持できているのは、各診療科の指導医の皆様の熱心なご指導の賜物です。忙しい日々の中、学生指導、後進育成に心を砕いてあたってください、心より御礼申し上げます。

学生や研修医に聞きますと、臨床実習における学生への対応、研修医への指導の様子が学生の研修病院選びに大きく影響しており、現場の医師が誠意を持って指導してくれることや、自分も数年後はこうありたいと思える、目標となる若手医師との出会いがあることが、その病院が研修先の候補となることに繋がっているようです。

卒後臨床研修センターもより良いプログラムを作成、運用し、研修環境にも配慮しながら、研修医確保に努めてまいりますので、引き続き宜しくお願ひ申し上げます。

臨床研修に関しご質問、お気づきの点などございましたら、遠慮なく卒後臨床研修センターへご一報下さい。



平成29年度鳥取県臨床研修セミナー

平成30年2月2日(金)米子ワシントンホテルプラザに於いて、平成29年度鳥取県臨床研修セミナーが開催されました。

岡山済生会総合病院 整形外科 診療部長 川上幸雄先生を講師にお招きし、「救急整形外傷～プライマリケアとその後～」と題してご講演の後、「シーネ固定、三角巾固定の仕方からボーンモデルを用いた骨接合術体験」としてワークショップのご指導をいただきました。

当日は絶え間なく続いている寒波が小康状態であったことも幸いし、鳥大病院をはじめ県内から指



導医・上級医14名・研修医63名・医学科学生3名の併せて80名の参加となりました。

参加者からは、「講演では、専門的な知識に加えて初期対応等見逃しのない診療について分かりやすく説明があった。」「ワークショップでは、実践的な手技を学ぶことにより具体的なイメージが湧いた。」などの感想も寄せられ、充実したセミナーとなったようです。

また、本セミナーに引き続いて鳥取県主催の研修医交流会も開催され、鳥取県内の研修医・指導医が一同に会し、各病院から日々の研修内容や研修環境についての発表がありました。研修医達は、同期の仲間と久しぶりに会い、お互いの近況報告や情報交換などで盛り上がっていた様子でした。



平成29年度 鳥取大学医学部附属病院 初期臨床研修合同説明会

平成30年2月9日(金) 鳥取大学医学部記念講堂にて「鳥取大学医学部附属病院 初期臨床研修合同説明会」を開催しました。

説明会は16時30分～19時40分と長時間でしたが、医学科5年次生62名の参加がありました。

第一部では「鳥取大学医学部附属病院卒後初期臨床研修プログラムの概要」と題して、当院8つのプログラムについて、プログラム担当者から説明がありました。また実際のプログラムで研修を行っている研修医から体験を交えたプログラムの特長などについて紹介もあり、より具体的にイメージできたの

ではないかと思います。

第二部では、山陰両県をはじめ津山市、大阪市より11の各関連病院から参加がありました。プレゼンの時間が5分という短時間ながらも、各病院が趣向



を凝らしたスライドやパフォーマンスで研修内容について説明がありました。

第三部では当院の卒後臨床研修センター、専門医制度準備室、各診療科、各関連病院がブースを設置し個別相談を行いました。中には終了時間ギリギリまで学生の相談を受けているブースもありました。

医学科学生の皆さんには、この合同説明会への参加を機に、山陰地方に軸足を置いた初期研修を計画してもらえたたらと思います。



平成30年新年会

年明けの1月5日、毎年恒例の研修医主催の新年会がANAクラウンプラザホテルにて行われました。研修を行う全ての診療科の先生方をお招きして毎年開催しています。今年もたくさんの指導医の先生方、若手～教授までたくさんお集まりいただきました。恒例のbingo大会も豪華賞品がたくさん並びました。最後には、賞品に対して数名bingoになった方があり、じゃんけんで当選者を決める場面もありました。皆さん本気の表情でした。



平成29年度鳥取大学医学部附属病院卒後初期臨床研修修了式

平成30年3月26日、卒後臨床研修センターカンファレンスルームにて卒後初期臨床研修修了式を執り行いました。病院長より、医科21名、歯科1名の研修医に修了書が手渡されました。研修を始めた頃と打って変わって頼もしくなった姿に、病院長・センター長から祝福と激励を受け、総勢22名の研修医が卒後臨床研修センターを巣立っていきました。

修了式終了後には、平成29年度ベストレジデント賞および優秀指導医賞の授賞式が併せて行われました。常連のあの先生、まさかのあの先生、様々な顔ぶれが並びました。



研修医日誌



鳥取大学医学部附属病院
研修医2年目 杉村 留実子



あと少しで研修医として指導医の先生方に守られていた時期が終わってしまう、不安な気持ちをいただきつつ研修をしています。

私は鳥取大学自由選択プログラムを選択し、2年間の初期研修を行いました。1年目の9月まで大学、10月から2年目の8月まで神奈川県藤沢市民病院、9月からは大学に戻るという変則的な研修プログラムを組みました。藤沢市民病院では救急科メインの研修でしたが、自分の志望科であった婦人科、泌尿器科なども研修させていただくことができました。市中病院での研修は大学との違いに驚くことばかりでした。藤沢市民病院の救急外来はご飯を食べる時間もないほど忙しく、救急に苦手意識が強かった私にとっては辛いこともありました。とてもやさしく優秀な同期、先輩に支えられながらなんとか乗り切ることができました。救急が嫌いと言っていた私も少し好きになることができたように思います。同期から学んだことは本当に多く、将来の専門科を決める時にも教えてもらった考え方方が大きく影響しました。たくさん悩み神奈川県での研修を選択しましたが、ある先生が言っていたように「何かの縁」なのだと思います。外へ飛び出することで人の出会いも増え、自分の人生は予想もない方向に大きく変わるものです。短期間の県外での研修生活における人の出会いが私の人生を大きく変えました。仕事だけでなくプライベートにも変化がありました。私の選択が吉とでも凶とでもかは今後の自分次第なのだと思いますが、いくつになっても人の出会いは重要だと痛感する研修生活でした。もちろん変化に戸惑うことも多くありましたが、恐る恐る関東での研修を選んだ私は素敵な同期、先輩に恵まれ忘れられない1年間を送ることができました。

初期研修終了間近の今、母校の先生方のアドバイスのおかげで今の選択ができたのだなと改めて感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。3年目を迎える大きな不安を抱えながらも、きっとまた刺激的な縁があるのだろうと楽しみにしつつ、残り少ない研修生活を楽しみたいと思います。

医局探訪

～第一外科診療科群～

統括医長 尾崎 知博

鳥取大学医学部外科学第一講座（第一外科）は、米子医科大学時代の昭和22年10月に綾部正大先生により開講され、開講71年の長い歴史をもつ診療科です。その後、古賀成昌先生・貝原信明先生・池口正英先生へと引き継がれ、消化器癌細胞診断学や腫瘍免疫、腹膜播種に対する腹腔内温熱療法や癌に対する機能温存手術などの基礎・臨床研究を全国に先駆けて行ってきました。さらに平成28年11月より藤原義之先生が第五代教授に就任され、“すべては患者さんのために”の理念のもと、診療・研究へのアクティビティをさらに高めて日々研鑽を積んでいます。第一外科は以下を果たすことをミッションにしています。

- 1) 高度な専門医取得をめざす。
- 2) 博士号を取得し、リサーチマインドをもって診療に当たる。
- 3) 将来の医療に貢献できる診断治療法の開発をめざし研究を行う。
- 4) 地域医療・チーム医療を推進し、様々な分野でのリーダーを育成する。

第一外科では 上部消化管・下部消化管・肝胆膵・小児外科の4グループに専門分化し診療を行っています。がん手術治療において、体にやさしい内視鏡外科手術は、早期社会復帰に貢献するだけでなく、術後体力低下を抑えることで癌の治療成績をも改善す

る効果があり、近年急速に普及しています。さらに2018年度診療報酬改定で、胃切除・直腸切除を含む消化器外科領域6術式においてロボット支援下内視鏡手術が保険適用となります。内視鏡外科手術の半数以上は消化器外科が担当しており、今後も低侵襲外科手術の中心を担っていく診療科です。手術だけでなく進行がんに対する集学的治療、5-ALAやICGを用いた光線力学診断や腹腔内化学療法などの診断・治療法の開発にも積極的に取り組んでいます。小児外科は小児の機能・形態異常や小児がんを外科的に治療します。将来のある小児医療を担当し、その子が未来を切り開く助けをする非常にやりがいがある診療分野です。

近年、医療現場において分化と統合が進み、医療はさらに高度化しています。質の高い医療を地域に提供するには、高度な専門知識・医療技能の獲得のほかに、チームや地域とのコラボレーションは欠くことのできないものです。第一外科は診療範囲が多岐に渡るためチーム医療の実践がかけません。コ・メディカル部門など他職種との協調、各専門科間の円滑なコンサルテーションなど、患者さんを中心として展開される日常的なチーム医療の実践を研修医の皆さんにはしっかりと学んでもらえると思います。

第一外科ではキャリアパスにおいて最短でスムーズな専門医取得を心がけています。それを可能にし

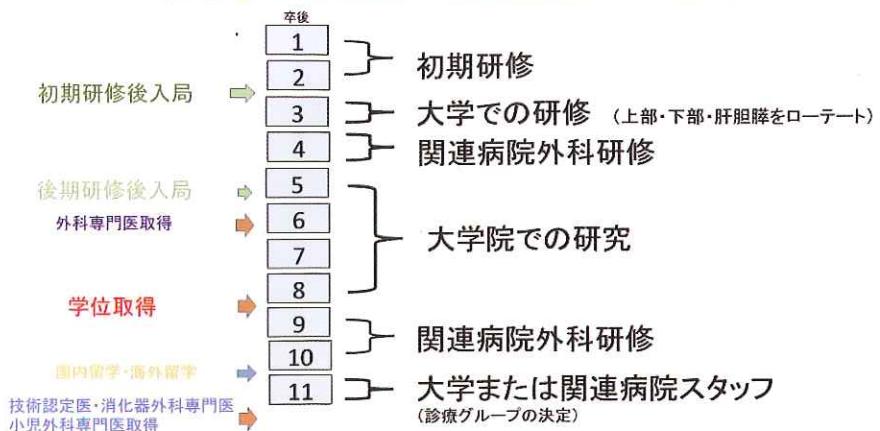


ているのが医局と研修関連病院との密な連携です。専門医を取得するのに必要な研修プログラムを適時調整し、若い時期から診療や研究などができるチャンスに恵まれるような環境を提供しています。専門研修医として身に着けた能力をもとに留学し、国内

や海外へ羽ばたいてください。また留学で身につけた知識・技術を地域に還元してくれると嬉しく思います。第一外科の研究・留学支援をぜひ活用してください。

最後に・・・、第一外科の素晴らしいところは、
どのような人でも受け入れ、
育ててくれる非常に度量の深
さをもった科であることで
す。医局のみならず関連病院
も一丸となって研修医の先生
をサポートするのも第一外科
の伝統です。第一外科は外科
件数が豊富にあり、研修関連
病院も数多くあります。手術
に興味があり、手術を極めて
みたい人は、ぜひ第一外科で
一緒に働いてみませんか！

当科における外科医キャリアアップ



研修医今昔物語 ~秘技“朝日エナジー充填法”~

眼科 馬 場 高 志

原稿を依頼された時に、あらためて自分の年齢から医師になった年を逆算すると、既に25年経過していることに気づきました。生まれてから、半分も医師という仕事を続けてきた事と、現在研修医である皆様は、自分が医師になりたての頃は、まだ存在していないか、乳幼児だったということになります。そんな石器時代の話を聞かされても、若手の皆様は愛想笑いを浮かべながら、当惑してしまうと思いましたが、恥ずかしながら自分の思い出を書かせて頂きます。

働きはじめて3カ月で派遣された病院で、全科当直の折、急患の連絡にも翌朝まで一切目覚めず、わざわざ一緒に宿泊してくれていた中堅の他科の先輩が全て診察をしてくれていたという事件がありました。もちろん院長から注意がありましたが、助けて頂いた先生は、私の平謝りにも「よく眠っていて、かわいそうだったから」と気分を害する事なく許して頂いたのは、忘れられない思い出です。

医学の進化と、症例数の増加のため、私が研修した頃よりも、入院期間は1/3以下ですし、手術

も進化し、研修医の皆様は、私の経験した時代よりも、はあるかに多い量の勉強を、より効率よく行わないといけないので、苦労も多いと思います。本当に、しんどい時代になったなと思って、自分が猫背で考え方をしていると、いつも永島先生(現研修センター長)が、「ばば～、それじゃ後輩が寄り付かないぞ、背筋を伸ばして、ニコニコしていることッ。」とよく指導され、慌てて、ヘラヘラすることができます。これを応用して、先日、蘆田先生(外科)にも教えた、とっておき運気上昇方法があります。露天風呂に行ったら、男女関係なく、仁王立ちで腰に手を添えて、“下腹部”に“朝日”をあてて、口には出さずに「天下、とったるー。」と言います。口に出してもいいですが、周りに人がいないのを必ず確認してください。なお、鳥大だけの秘技なので他には絶対に漏らさないようにお願いします。



平成30年度行事予定

平成30年度前半

日 程	行 事
4月2日（月）	鳥取大学医学部附属病院医療系職員合同オリエンテーション
4月3日（火）	研修医プレローテーション開始
4月7日（土）	第10回鳥大JMECC（医科1年目研修医）
4月9日（月）	JMECCの振替休日（医科1年目研修医）
4月10日（火）	鳥取大学医学部附属病院ホスピタリティ研修
4月12日（木）（予定）	研修科での研修開始（医科1年目研修医）
6月初旬	マッチング登録開始
7月19日（木）	平成31年度研修歯科医採用第1回試験
8月初旬	マッチング登録〆切
8月2日（木）	平成31年度研修歯科医採用第2回試験
8月13日（月）	平成31年度研修医採用第1回試験
8月中旬	鳥取県サマーセミナー
9月頃	臨床研修外部評価受審（NPO法人卒後臨床研修評価機構）
9月11日（火）	平成31年度研修医採用第2回試験
9月下旬	マッチング中間公表
9月21日（金）	国立大学附属病院長会議医師臨床研修協議会（島根大）
9月27日（木）	平成31年度研修医採用第3回試験

※平成30年度指導医講習会は10月13日（土）、14日（日）を予定しております

編集後記

今年度もあっという間に終わってしまいました。（毎年同じことを書いています。）今回は、連載記事がいつもより濃いめだったでしょうか？指導医や研修医の、普段は聞けない話が聞けるのが、この研修センターだよりの醍醐味ではないかと思っています。今後も多くの方に鳥取大学での研修に興味を持っていただけるよう、来年度も充実した内容の研修センターだよりを発行していただらと思います。

なお、この研修センターだよりは当院で研修を修了した先生方にも配布しています。勤務先や住所が変更になった場合は、下記の連絡先までご一報ください。（西村 玲）

鳥取大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1

TEL: (0859) 38-7025 FAX: (0859) 38-6974

e-MAIL: jimsotsugo@ml.adm.tottori-u.ac.jp

URL: <http://sotsugo.med.tottori-u.ac.jp/>

